

学会ホームページ <http://jasce.jp>

070号 (2023年4月27日)

目次

第19回全国大会の概要
会員情報の変更届
年会費納入のお願い
『協同と教育』第18号の発行について
『協同と教育』への投稿募集中
第6回オンライン講座を開催しました
第7回オンライン講座「日本の協同学習」開催のご案内
各地の研究会・勉強会
ショートレター(会員からの投稿記事)

第19回全国大会の概要

第19回大会を2023年11月4日(土)～5日(日)に開催します。本大会では「協同学習から探究を問いなおす」をテーマに、学生・生徒・児童一人一人の探究の学びを、主体的な学びとの関連も視野に入れ、協同学習を通してよりクリアにしていきたいと思えます。1日目午後には協同教育と探究学習との関連を探っていく記念講演を開催する予定です。みなさまの参加をお待ちしています。

1. 大会テーマ

「協同学習から探究を問いなおす」

2. 大会日程

1日目：2023年11月4日(土)
2日目：2023年11月5日(日)

3. 開催方法

対面開催

4. 発表形式

口頭発表(研究発表と実践報告の2タイプ、発表20分質疑10分)

ラウンドテーブル(120分。ただし90分・180分も設定可能)

ワークショップ(120分。ただし90分・180分も設定可能)

5. 発表申込募集期間

開始日 2023年5月8日(月)

締切日 2023年7月24日(月)

大会で発表できるのは、令和5(2023)年度までの会費完納者に限ります。今年度の会費未納の方は発表要旨の原稿提出までに納入をお済ませください。なお、非会員の方と連名で発表される場合、発表代表者は会員の方に限ります。

6. 発表要旨原稿受付

開始日 2023年5月15日(月)

締切日 2023年8月21日(月)

7. 参加申込期間

受付開始日 2023年5月15日(月)

受付締切日 2023年10月20日(金)

当日の受付をスムーズに運ぶために、事前振込にご協力ください。なお当日の参加受付も行います。大会参加費とその振込口座については学会ホームページで別途お知らせします。(年会費の振込口座とは異なります。)

8. 大会参加者専用サイト

参加者専用のサイトを開設します。

9. 大会に関する問合せ先

日本協同教育学会大会実行委員会
〒732-8509 広島県広島市東

区牛田新町4丁目1-1

比治山大学 佐々木淳研究室内

E-mail: taikai@jasce.jp

お問い合わせはE-mailでお願い致します。件名に「日本協同教育学会第19回大会」の文言を入れてください。

第19回大会実行委員長 佐々木 淳

会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などにもなつて、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届け出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。
(<https://www.jasce.jp/php/1044form.php>)

年会費納入のお願い

本年度の年会費5,000円の納入をお願いいたします。以下の口座に振り込んでください。3年度を超えて年会費が未納となった場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行

支店 〇一九

口座番号 (当座) 0315442

名義 日本協同教育学会

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00100-8-315442

加入者名 日本協同教育学会

JASCE

『協同と教育』第18号の発行について

2023年3月に「協同と教育」第18号が発行されました。今号では1編の研究論文に加え、「協同学習ツールとしての看図アプローチ」というテーマでの特集が生まれ、実践研究論文4編、研究論文1編が集録されています。また第17回大会記念シンポジウム、第18回大会記念講演会の記録も掲載されています。ぜひともお目通しください。

なお、第18号191ページに記載されておりました新入会員の箇所におきまして、鈴木裕利先生のご所属が間違っておりました。鈴木裕利先生のご所属は正しくは「中部大学」でありました。ここにお詫びとご訂正申し上げます。

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第19号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

第6回オンライン講座を開催しました

2023年2月18日(土)に第6回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員28名と未会員8名の36名でした。

今回は、「日本の協同学習(日本協同教育学会編, ナカニシヤ出版)」の「第5章 自己教育力を育む評価と協同学習」を執筆された石田裕久先生(南山大学名誉教授)を講師としてお招きし、動画視聴、ご講演、参加者同士のディスカッションを組み込んだワークショップ形式での講座を実施していただきました。参加者から

は、「本日の講座に参加して、評価について学生と共有できていないことが多いなと反省しました。」や「学生の置かれている状況は様々ですが、一人一人の環境もみながら、過渡的段階にある事を忘れずに具体的なフィードバックを心がけたいと思いました。」「『評価』といういつも頭を悩ませるところを解説していただき、とても勉強になりました。とりわけ、『教師や親からの評価は、正しく自己評価ができるようになるまでの過渡的段階』というところで、今までもやもやしていたことが霧がはれるような感覚で、自分の中で感動と衝撃を受け、今日参加して良かったと思いました。」といった感想が寄せられました。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

第7回オンライン講座「日本の協同学習」開催のご案内

2023年6月10日(土)14時から、第7回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第7回は東海学園大学教授の水野正朗先生を講師としてお迎えし、第6章「協同学習への教育方法学からのアプローチ」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

各地の研究会・勉強会

(東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会

◇2023年2月例会を2月18日(土)

13時30分から愛知文教大学ABUラウンジにて開催しました。「愛知文教大学 学び合う学び研究会」との共催です。テーマは「対話による深い学びの実現」、報告者は水野正朗(東海学園大学)。参加者は20名でした。深い学びを導き出す工夫を、「精緻化」「メタ認知」「主体性」をキーワードに検討しました。対面による久しぶりの研究会でした。

参加者からは「主体的な学び、対話による学びは、現場でも盛んに研修が行われていますが、深い学びについては可視化が難しく、あまり追究されていないのが現状だと思います。深い学びに向かうキーワードとして『精緻化』という言葉を選びました。様々な知識が網目状につながり、より詳しく理解されていく過程が、認知的に深い学びにつながっていくと理解しました。また、『他律内発的動機づけ』も興味深い言葉でした。新しい知見に触れることで、深い学びに近づけるような気がしてきました。」等のリフレクションがありました。

◇今年度は名古屋大学教育学部を主会場として年4回程度の例会開催を目指します。まず5月20日(土)、7月15日(土)の開催が決まりました。両日とも13時30分開始の予定です。

5月20日(土)は、教職を目指す大学生たちがある中学校に出向いて、三浦哲郎の小説『盆土産』を題材にしたAL授業実践を行った事例を検討します。報告者は、「中京大学文学部アクティブ・ラーニング研究会」の学生たちと研究会顧問の小塩卓哉先生(中京大学)です。次の7月15日(土)は、第17回大会記念シンポジウム「『令和の日本型学校教育』と協同教育」に続く内容になりま

JASCE

す。報告者は、久川慶賀先生(春日井市立藤山台小学校)です。ICTをフル活用した久川先生の教育実践がその後どのように変化、発展したかをご報告いただき、これからの学校教育についての議論を深めます。

連絡先: 水野正朗(東海学園大学
mizuno-ma@tokaigakuen-u.ac.jp)

協同学習と動機づけ研究会(三重)

◇2023年3月18日(土)に第4回「協同学習と動機づけ研究会」を開催いたしました。今回は、鈴木一将先生(鈴鹿市立郡山小学校 現:鈴鹿市立加佐登小学校)の授業実践(小学校第3学年、理科)を教材として、まずは授業を動画で視聴し、授業者が補足説明を行いました。それをもとに、参加者同士が協同学習や動機づけの観点から活発に議論しました。最後に、杉江修治先生(日本協同教育学会名誉会員)から、動機づけを高める手立て、学習の見通しを持つために必要な情報や手がかりを十分に明確にした上で学習ステップを大きくすることなど、たくさんのコメントをいただきました。時間を超過してしまうほど盛り上がり、全員の学びが深まる研究会となりました。

(中西良文・長濱文与)

連絡先: 中西良文(nakanishi.yoshifumi.mie.u.ac.jp@gmail.com)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第46回・第47回「協同学習を用いた看護教育研究会」は、順天堂大学先任准教授の酒井太一先生にご担当いただき、「マインドマップ」の理論編と実践編をテーマに開催しました。

第46回の「理論編」は、1月21日(土)14:00～16:30にオンライ

ンで開催し、30名(うち初参加7名)が参加されました。酒井先生より「マインドマップ」～主体的学習集団形成のための一方策～のご講義とご自身の授業実践・研究論文のご紹介をいただきました。グループ活動として、「年末の良かったこと・期待外れだったこと」をテーマにミニマップ作成の体験とグループディスカッションを行い、その後、全体で質疑応答を行いました。参加者からは「マインドマップの基礎的な理論や意義が学べた」、「放射思考という思考の広げ方を理解できた」などの意見がありました。

第47回の「実践編」は、3月19日(日)10:00～12:00にクロスパル高槻で対面にて開催し、関東・東海・中部・関西から23名が参加されました。創価大学の関田一彦先生も参加してくださり、ご指導をいただくことができました。参加者は、事前課題として「春休みに行く4泊5日の北海道旅行」をテーマに3つのメインランチ①旅行の計画、②5日間の持ち物、③買いたいお土産、を考えて臨みました。酒井先生のご指導のもと、まずセントラルイメージを描き、その後3つのメインランチをもとにフルマップを描きました。グループで各自のフルマップを共有した後、全体で質疑応答を行いました。参加者からは、「学習成果物を作成する前段階のタイミングで用いると思考整理に活用できる」「綺麗に仕上げることや形に拘るのではなく、思考を止めずに思うままに描いてみるのが大事」「テーマについてあれこれ描き、最後に俯瞰した時に自分が大切にしたいことが見えてきた」「学生に作成させる時の配慮、活用方法や留意点について具体的に学べた」等の学びが述べられ

ました。

また、理論編と実践編に分け連続して開催したことについては、「予習と復習ができて理解が深められた」「理論編と実践編までの間に復習し、ミニマップや簡単なフルマップを描いて試してみることで新たな疑問がわいた」「実践編ではグループメンバーや酒井先生の説明から更に理解を深めることができた」などの感想があり、看護教育への活用をイメージすることができました。3月の研究会終了後は、ランチ懇親会を「ビストロモナミ」で開催しました。(1月・3月の企画・運営及び文責: 卜部紘子・堀川眞知子・緒方巧)



◇今後の開催予定

第48回は、2023年5月20日(土)14:00～17:30、場所はグランフロント大阪北館2階ナレッジキャピタル「The Lab」アクティブスタジオ、テーマは「看図アプローチ・理論編」で、5月と次回の8月は、講師に鹿内信善先生(全国看図アプローチ研究会会長)をお招きします。懇親会は17:30～19:30「フォーダブリュー」で開催します。

第49回は、2023年8月19日(土)13:30～17:00、場所は藤田医科大学、テーマは「看図アプローチ・実践編」で、藤田医科大学の織田千賀子先生の「VR・看図アプローチ・協同学習」の授業実践報告、VR教材の体験、鹿内信善先生の講義と質疑応答を計画しています。8月の懇親会は行いません。

参加申し込み・連絡先 代表: 緒方巧(t-ogata@baika.ac.jp)

JASCE

(中四国地域)

協同学習研究会 (岡山)

◇去る3月4日(土)の午後2時～5時30分、オンラインにて今年度第4回の協同学習研究会を開催しました。東原猛琉先生(瀬戸内市立牛窓西小学校)より、小学2年生・算数「九九のきまり」の授業動画を全員で視聴し、様々な角度から議論を重ねました。個の自力解決の際に子どもたちが紡ぐ「学習の言葉」を「教科の概念」に繋げながら理解を深めさせていく「協同」のありかたを、授業動画から読み解き、互いの実践知を重ね合わせることでできた時間でした。題材は小学2年生の算数でしたが、校種を問わず共有できるものの多い研究会となりました。

◇今年度は下記の日程を予定しています。いずれも土曜日の午後2時からです。対面かオンライン開催かは検討中です。現時点で第4回以外の話題提供者は未定です。希望される方は高旗までご連絡ください。

第1回：6月10日

第2回：8月19日

第3回：12月2日

第4回：2024年3月2日

連絡先：高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

第57回「協同教育研究会」開催報告

◇2023年2月25日(土)13時から16時まで、『対面』で実施しました。今回は、はるばる北海道より鹿内信善先生にお越しいただき、「看図アプローチ」について学びました。参加者は37名でした。前回同様、16時から情報交換会も行いました。会の概要を報告します。

(1) 挨拶・導入

いつも通り4名グループをつくり、「協同の技法をもちいた自己紹介」と「協同学習の基礎基本」について学びました。

(2) 「看図アプローチで活性化する探究学習」

講師：鹿内 信善(天使大学)

研修の目標は、「①看図アプローチを活用した探究学習のモデルを体験的に理解する。②協同学習促進ツール『きゅうちゃん』になじむ。」でした。さっそく、全国看図アプローチ研究会専属アートスタッフ「石田ゆき」先生が作成された『きゅうちゃん』を使ってアイスブレイクを行いました。あつという間に会場には笑顔があふれ、人の心を柔らかくすることができるツールだなと感心しました。続いて絵図を使って、「もの」「こと」原理や、「予測」「確認」の原理、多段階動機づけ等についても体験的に学びました。

時間が足りず、まだまだ共に学びたいということで、鹿内先生に、また久留米に来ていただくことになりました。



研究会案内等は「結風」ホームページ(<http://yuikaji.me/>)をご覧ください。

問合せ先：協同教育研究所「結風」(office@yasunaga.me)

(全地域)

全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』17号を公刊しました。

第1論文は、協同学習促進ツール「きゅうちゃん」を活用した実践です。田中岬学級の子どもたちは「きゅうちゃん」と一緒に生き生きと活動しています。かつ、着実に力をつけています。「特別支援教育+看図アプローチ」という新しい領域を、田中自身も楽しみながら開拓してくれています。

第2論文は、看図アプローチの実践校、長崎県央看護学校からです。看図アプローチを「教科の指導」だけではなく「教科外活動の指導」にも使う。このようなちよつとした発想の転換をいかして山口奈津子・田中伸子をはじめとする長崎県央看護学校チームは様々な実践を展開してくれています。山口から鹿内に届いたメールに、次のような言葉がありました。「看図アプローチなしでは、ほんとにこの仕事できないな」と感じています。」ありがたいことです。これからも、長崎県央看護学校からの「発信」は続いていきます。

第3論文は、「きゅうちゃん」の考案者石田ゆきの連載です。今回は、『「とっても大事なちよこつと使い」なきゅうちゃん活用例』を紹介してくれています。「看図アプローチは敷居が高い」と思っておられる先生がおられましたら、ぜひ「きゅうちゃんのちよこつと使い」を試してみてください。看図アプローチを活用した授業の楽しさやおもしろさを体感していただけたと思います。

掲載論文

1. 特別支援学級における看図アプローチの活用—自立活動と国語科でのお話づくり—(田中 岬)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.17_pp.3-21.pdf

2. 看図アプローチを活用した看護学校での教科外活動実践—協同で学ぶ意味を考える—(山口奈津子・田

中伸子・山下雅佳実・鹿内信善)
https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.17_pp.23-30.pdf

3. きゅうちゃんの歴史(II) - ひとつも大事な「ちょこっと使い」編 - (石

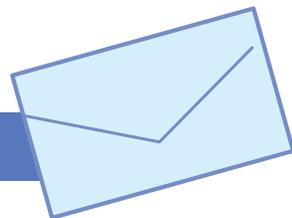
田ゆき)
https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.17_pp.31-44.pdf

4. 編集後記(鹿内信善)・奥付
<https://kanzu-approach.com/>

journal/journal-vol.17-henshukoki.pdf

連絡先: 研究会事務局長 石田ゆき(kanzu.approach.office@gmail.com)

ショートレター 会員からの投稿記事



教師の立ち位置

学習者の主体的な学びの実現は、現今の実践の主要な課題です。しかし、教師主導から一向に抜け出せていないのが実態です。さまざまな要因があるのですが、教師の立ち位置という視点から、日ごろの実践参観のなかで得た考えを述べたいと思います。

授業中の何気ない教師のこぼのなかに、折々、気になるものがあります。

「では、〇〇してもらえるかな。」

「△△していただくと思います。」

「ちょっと問題が難しかったかな。ごめんね。」

学習者をお願いしたり謝ったりしているのです。学習者は、学びについては教師と比べて圧倒的に素人です。学びの指針を与えるのは教師の仕事です。主体的な学習は、すべてを学習者に任せた放任で進めるものではありません。学びの枠組みはプロの教師が定め、学習者自身で学習活動を進められるだけの情報を与え、効率的な学びの手順を知らせた上で実現するものです。教師の下支えの主導性を欠かすことはできません。その学びに際して、教師がなぜお願いしたり謝ったりするのでしょうか。学習者は、教師のために学んであげるわけではありません。

私が懸念するのは、そういう、口振りが、学習者に優しい教師と受け取られたいという指導態度のあらわれで

はないかということです。お願いされたならば、やってあげようという対応が生じます。お願いに応える学習活動は、学習者自身のための学びではなく、教師に応える学びになります。すでに主体的学びから離れた活動になっています。先生が好きだから勉強しようという動機を促すことは、あるべき指導の姿でしょうか。好かれる先生になれば授業が何とか進むけれど、学習者に嫌われたならば進まないことを恐れているのでしょうか。教師のために授業があるのではありません。

小学校低学年では特に多いのですが、教師が前のめりの姿で子どもに向かい、いつでも手助けをしますよという思いを形であらわしている場面に出会います。手伝いたくて仕方がない、いつでも教えてあげるよ、やってあげるよという心配そうな姿です。そこには、いつでも教えてくれる優しい先生がいます。学習者主体の学習は抑制されると思います。

昔、指導が困難な高校で、九九をすっかり忘れてしまっている生徒たちに、その習得の必要性を強調して、九九に取り組みせる授業に出会いました。やればできるはずの生徒を信じ、本気で成長を支援する厳しい教師に対して、生徒が自身の課題と理解して、しっかり取り組んでいる姿に出会いました。

学習者は、本気で自分を伸ばそうとする教師が欲しいのです。成長したい自分が挑戦する機会を作ってくれる教師に出会いたいのです。挑戦の

気持ちが湧く場面づくり、挑戦したこと自体に共感してくれる教師を求めています。口先だけの励ましではなく(「今日はみんなよく頑張ったね」「みんなしっかり考えているよ」などではなく)自分の達成の喜びを共にできる教師が欲しいのです。そういう教師は学習過程では表に出ることがありません。「教えた手応え」を求める教師ではそういう役割は果たせません。旧来の、教師の指導の文化で、当たり前とされてきた教師の立ち位置を、こういう視点から見直したいものだと思います。

私は、協同学習は「助け合い」ではなく「高め合い」「認め合い」だと考えています。相手に対する単なる優しさは、無難な人間関係を築くことはできるかもしれませんが、相互の成長を促す人間関係ではありません。優しさはもちろん必要です。教育の場ではしかし、成長したいという欲求を受け入れることが優しさの出発点である必要があります。学習者、特に子どもは環境に合わせて成長します。教師が活躍すれば、教えてもらうことが勉強だということを学びます。優しいだけの人間関係で満足してしまいます。子どもたちが懐き慕ってくれることを求める教師では、主体的な学びを作ることではできません。成長意欲への信頼を基盤として授業を進める教師は、結果として慕われるのです。協同は「馴れ合い」ではありません。

(中京大学名誉教授 杉江修治)